

2010.01.08 17:30~ (北海道大学原子核理論研究室)

1: 出席者

加藤<sup>a,b</sup>・千葉・能登・片山・平林・

松本<sup>c</sup>・富樫<sup>c</sup>・浅野<sup>c,d</sup>・古立<sup>c</sup>・牧永<sup>c</sup>・椿原<sup>c</sup>・村上<sup>c</sup>・Ichinkhorloo<sup>c</sup> 吉田<sup>c</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- プロGRESSレポートの原案を作成 (吉田)
- IAEA の核データ会議 (2009/05/25-27 Vienna) に参加(能登、古立、Ichinkhorloo) - GSYS の Presentation は IAEA Workshop(5/28,29)で行った。
- IAEA 核反応データセンター会議 (2009/05/27-29 Vienna) では、下記が決定
  - I. 2010 年核データ会議前 (GW 前) に札幌にて、核データセンター長会議(2010/04/20-23)を開催。開催地はエンレイソウ、正規参加者及びオブザーバーあわせて 33 名の予定。バンケット・エクスカージョン開催の計画あり。エクスカージョン用に北大バスを借りる交渉中。
  - II. 2010 年核データ国際会議(ND2010, 4/26-30)は、濟州島にて開催。
- 2009 年 7 月から牧永が VBL 研究員として赴任した。
- 原子核研究室に TV 会議システムが導入された。
- CP-memo cpe142,143 を送信。物理量・文献の提案
- インドの国際コーディング会議 (11/3-7, ジャイプール) に牧永・村上が参加
- Tours symposium in Kobe における核データに関するセッションで加藤が発表 (2009/11/16-20) その際、天体核反応に関する評価活動についての国際的な協力体制を提案した。
- 核データ研究会で富樫がポスター発表(2009/11/26,27)
- 理研ベタコンピューターを用いた研究開発プロジェクトの議論が行われている。-理論核データの成果の公開に JCPRG への協力依頼があり、了承した。
- 大塚氏(IAEA)から 2010 年 4 月の核データセンター長会議と同時期に Dunaeva 氏を北大に招待して欲しいという依頼があり、了承した。
- 理研 - 北大の研究協定が締結され、1 月から椿原が博士研究員として着任した。4 月からの包括協定を協議中。

- 核データセンターとして北大運用定員の使用を希望していたが、今回は申請が認められなかった。(加藤)
- Final E057, E058, E059, K005 送信 (古立)  
Prelim. K005、E060 を送信 (古立)

### 3: 議題

- 2008 年度年次報告書 (能登)
  - 原稿は全て集まり、レフリーの方々に見てもらっている。発行は今月末以降を予定。(吉田)
  - Zerkin 氏の研究会のトラペンを含むためページ数が増加する。(加藤)
- 2009 年度年次報告案  
年次報告 (120 ページ程度を予定。以下のページ数については 2005 年度のものから推定)
  - a. 巻頭言 (大塚氏に依頼 (能登提案)、能登 (加藤提案) の二案) 2 ページ
  - b. IAEA センター会議報告 (古立・Ichinkhorloo) 5 ページ
  - c. インドコーディング会議報告 (村上・牧永) 5 ページ
  - d. GSYS の解説? (鈴木氏)
  - e. NRDF/A (古立・牧永) ページ数未定
  - f. 2009 年度辞書作業部会 (NTX-WG) 報告 (浅野) 12 ページ
  - g. 2009 年度に JCPRG から配信された EXFOR ファイル (古立) 11 ページ
  - h. 2009 年度に JCPRG から配信された CINDA ファイル (古立) 5 ページ
  - i. 2009 年核反応データセンター長会議報告 + Progress report (千葉、加藤) 10 ページ
  - j. 資料: 2009 年度入力データ (吉田、加藤) 12 ページ  
資料: 2009 年度の活動日誌 (NRDF 管理運営委員会議事録) 16 ページ  
資料: 略語一覧 1 ページ
  - k. 日本荷電粒子核反応データグループ (JCPRG) 1 ページ
  - l. 研究者のみなさまへのお願い 1 ページ

原稿締め切りを 4 月末、  
編集委員は片山、平林と決定した。

- 管理運営委員会の開催について (加藤)
  - 1 ヶ月間隔で開催を目指す。
  - TV 会議システムで遠隔地在住の櫻井・升井・青山・大西の参加を求める。
  - 月曜日を第一候補とする。

- NRDF の問題及び改善を協議する機関（吉田）
  - NRDF の問題及び改善について判断する機関をどこにするか？
  - 新年会で意見交換を行う予定。
- 当会議で、「評価済核データ共分散処理インターフェースの開発」のプレゼンテーションが行なわれた。（富樫）
  - 特別会計で作成されたが、この特別会計が 2010 年 3 月で終了する。
  - JCPRG で継続すべきではないか？（NNDC では SIGMA という似たシステムが存在するが、群平均化は為されていない）

次回開催予定日時 2010 年 1 月 25 日（月）18 時 00 分～

次回開催予定場所 北海道大学原子核理論研究室